

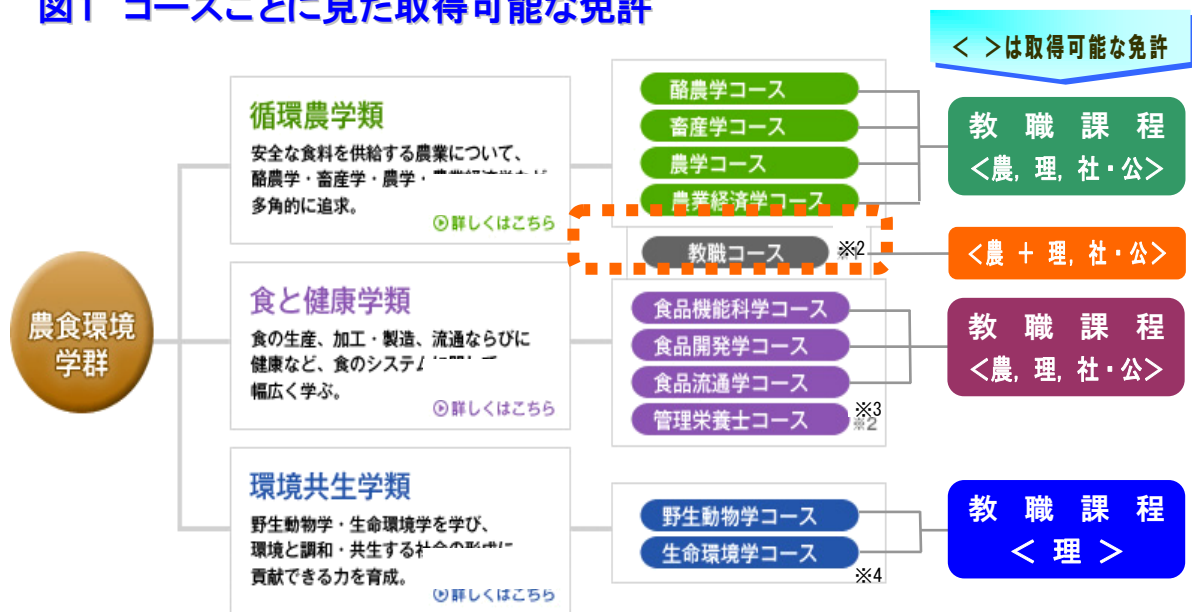
I 教職コースの特徴について

1. 教職コースとは？

酪農学園大学で教員免許を取得する方法としては、各コースに所属しながら教職課程に登録して免許を取得する方法と、教員養成を目的とした「教職コース」に所属して免許を取得する方法の2つがあります。このうち「教職コース」は、酪農学園大学の実学教育の特色を活かしながら実践的でコミュニケーション能力の豊かな教員を養成することを目的として、「循環農学類」と「食と健康学類」に新設されたコースです。教職コースは、卒業時に自動的に農業科の免許が取得できる仕組み（※1）になっており、さらに理科（中学・高校）または社会科・公民科の複数の免許を取得することで、農を基盤としながら幅広い領域に対応できる教員を目指すことが可能です。

※1 教員免許取得のための単位は、教職コースでは卒業要件に含まれますが、教職以外のコースについては卒業要件に含まれません。

図1 コースごとに見た取得可能な免許



※2 「教職コース」の学生は、循環農学類、食と健康学類いずれかの学類に所属。

※3 「管理栄養士コース」は、入学時に選択。教員免許は取得できません。

※4 「環境共生学類」には教職コースはありませんが、理科（中学・高校）の免許を取得することが可能です。

教職コースと教職課程生との違い

項目	教職コース	教職課程生
受講科目	教職コース専門科目（教職応用演習、インターンシップ等）を優先的に受講可能	左記科目については、受講年次・人数による制限がかかることがある
卒業要件単位	教職に関する科目などの約30～40単位分が卒業要件に加算	教職に関する科目については、卒業要件に含まれない
研究室・卒論	3年次から教職センター担当教員の研究室に所属して卒論の指導も受ける	教職センター担当教員以外の教員の研究室に所属して卒論を執筆
教育実習	3年生の後期に実施	4年生の前期または後期に実施
その他	周りのコース生全員が教員採用試験を目指した学習環境	教員採用試験を受験しない多様な学生も交えた学習環境

2. 教職コースの教育の特色

(1) コミュニケーション能力とリーダーシップの修得を目指した実践的科目の展開

最大定員 40 名の少人数教育による長所を最大限に活かし、フィールド学習やディスカッション、ロールプレイングなど実践的な力の修得につながる科目を積極的に展開することで、学級運営に求められる実践的なコミュニケーション能力やリーダーシップの修得を目指します。

(2) 教師に求められる基礎力・応用力を修得するための科目の展開

教職応用演習では教師として必要とされる基礎的な教養や思考力を高めるトレーニングを行うほか、教材開発演習では視聴覚・情報・通信機器などを用いながらオリジナリティあふれる教材を生み出すことに挑戦するなど、実践的で応用的な力を身につけることも可能です。

(3) 多様な体験的科目の配置と教育実習の早期化

インターンシップなどの体験的な科目の中で、子どもの実態や教育現場で求められる能力についての理解が深まります。また、教職コースの学生は3年後期（一般の教職課程を履修する学生は4年次）に教育実習に臨むため、自己の克服すべき課題を早い段階で明確にした上で、教員を目指すための学習に集中することができます。

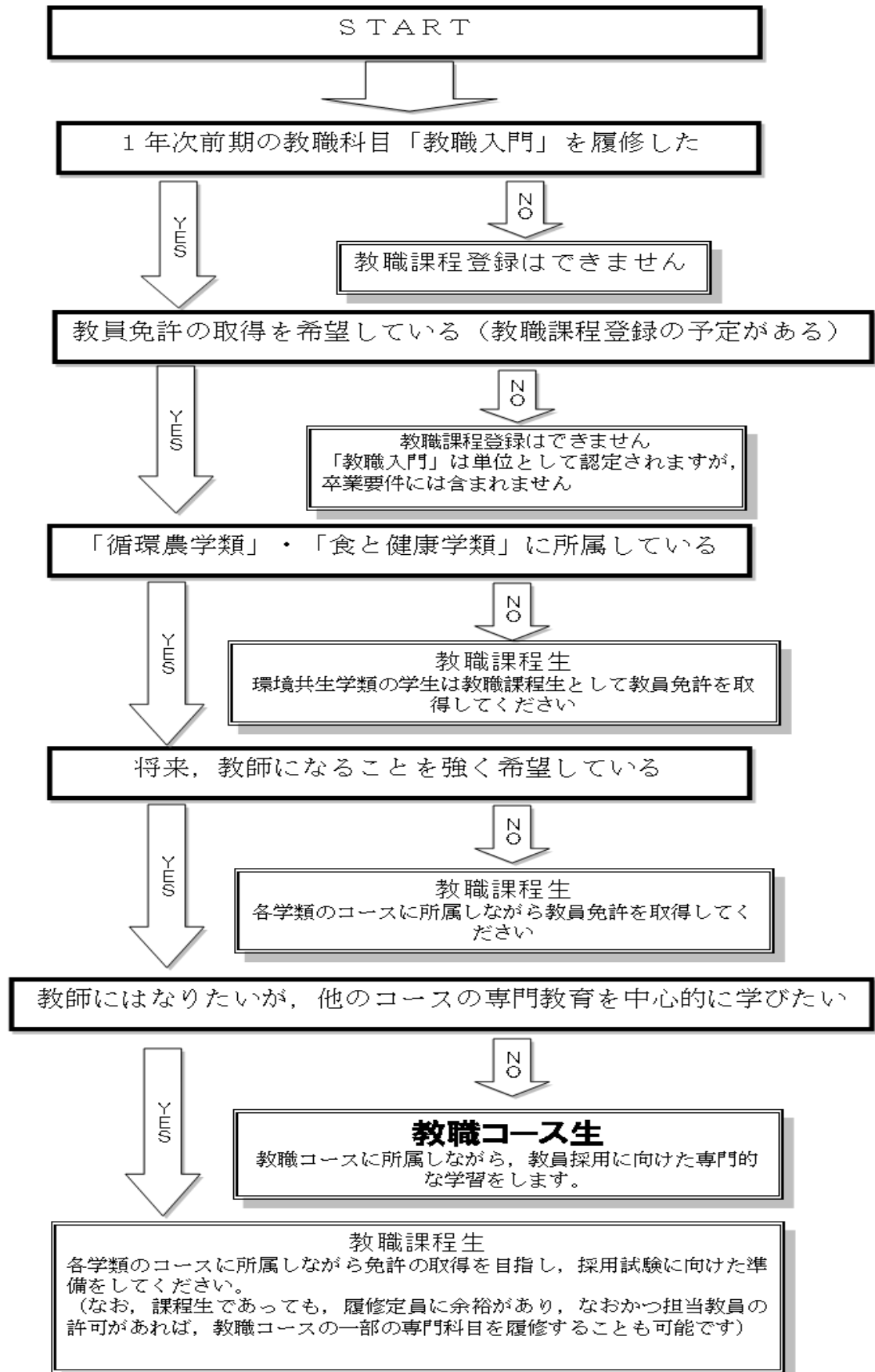
(4) 教員採用試験に向けた様々なプログラムと全国で活躍する卒業生によるバックアップ

酪農学園大学では教職の授業以外にも、教員採用に向けた教養・論文・面接試験対策講座の開催や、協定校の授業や実習の見学を行う特別研修の実施など、教員採用に向けた様々なプログラムを実施してきました。また、大学卒業後に全国の教育現場で活躍中の約 600 名のOBの協力のもと、教育現場に即した教員養成プログラムを展開しています。

【教職コース独自の専門科目】

科目名	開講時期	科目の概要
教職特論	2年	第一線で活躍している教育関係者による講話を基にしながら、学生と講師との間でディスカッションをする中で、教師に必要とされる力について考えます。
サービス・ラーニング	2年	地域や学校の抱える課題を積極的に発見した上で、その問題の解決を志向したボランティア活動等を実践することで、地域の発展と自己の成長を目指します。
教職インターンシップⅠ	3年	大学と協力関係にある学校や児童福祉施設などをフィールドとした職場体験を実施し、子どもと接する現場で必要とされる力量について考えを深めます。
教職応用演習Ⅰ・Ⅱ	3年	教育の思想・歴史、教育法規・政策や、学習指導、生徒指導、進路指導などを題材としたディスカッションやグループワークを通して、教師に必要とされる教養・論理的な思考力・コミュニケーション力を修得することを目指します。
教職インターンシップⅡ	4年	学校を含む様々な職場の中で2週間程度のインターンシップを実施することで、社会人や教師に必要とされる力をさらに高めます。
教材開発演習	4年	中学・高校生の学力水準の多様化に対応した授業展開に必要な音響・映像を利用した教材、e-ラーニングを用いた教材を体験的に学習・作成します。

3. 教職コース生と教職課程生との選択フローチャート



4. 教職コース生のコース移行基準ならびに教育実習履修の基準について

◆コース移行基準

1. 判定時期

1年終了時

2. 基準内容・・・(1)～(3)のすべての要件を満たしていること

(1) 教職に関する科目について

1年次開講の「教職入門」、「教育原理」、「教育心理学」の3科目すべての単位を修得していること。

(2) 単位取得等要件・・・①と②の両方を満たしていること。

① 1年次終了時に31単位以上（教職に関する科目を含む）を取得していること。

② 「建学原論」、「キリスト教学Ⅰ・Ⅱ」、「農場実習」、「基礎演習Ⅰ」のすべての単位を修得していること。

(3) 面接の実施

面接を通して、学業の成績・態度・意欲・適性等総合的な観点からコース生として特に支障がないと判断されるものであること。

なお、やむを得ない事由のために上記(1)及び(2)の要件を満たすことができなかつたと認められる場合には、教職課程委員会で審査の上、教職コースへの移行を許可することができる。

◆教職科目「教育実習」履修基準

1. 判定時期

2年終了時

2. 基準内容・・・(1)と(2)のすべての要件を満たしていること

(1) 教職に関する科目について・・・①と②を両方満たしていること

① 2年次開講の必修科目である「特別支援教育論」、「教育課程論」、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育相談論」、「教職特論」「サービス・ラーニング」、の7科目のうち、6科目以上の単位を修得していること。

② いずれかの教科教育法Ⅰの単位を修得していること。

(2) 単位修得要件

2年次終了時に62単位以上（卒業要件単位数の2分の1）以上を修得していること。

Ⅱ 酪農学園大学教職コースにおける「教員養成」がめざすもの

1. 学び続け成長し続ける教員を養成するために

本学の教職コースでは、教員をめざす学生が身に付けていくべき内容と将来長い教員生活の中で深化させていくために、以下のような内容に取り組んでいきます。

本学においては

- (1) より質の高い教員養成を行うこと。
- (2) 教員に必要な専門性をより一層高めていくこと。
- (3) 住民に教育に対する理解をより深めていただくこと。

以上により学校教育水準を高められる教員の育成めざしていきます。

教員の仕事は、地域、学校規模、担当教科などによって大きく異なりますが、本学では、教員として共通に必要なとされる専門性を次のように考えています。

- (1) 教員としての自覚と使命感、教育に対する情熱を強く持った「自分づくり」ができること。
- (2) 教科内容や指導方法に精通した、「授業づくり」ができること。
- (3) 生徒の人間的な成長や発達を支えていく、「人づくり」ができること。
- (4) 教職員同士や地域との連携を進める、「学校づくり」ができること。

教育の専門家となるためには、教員をめざすときから、また教員になってからも、不断の努力によってこれらの専門性を磨き確立させていくことが大切です。教職コースでは、以下に示すような実践的なプログラムを活用して学び続けていきます。

そして教員として成長し続けることにより、生徒や保護者・地域社会から求められる専門性を身につけた教員となるため、教育者として活躍されることを期待しています。

2. 本学のめざす具体的資質能力

- (1) 教員としての自覚と使命感、教育に対する情熱を強く持った「自分づくり」ができること。

①教育の意義の理解と教員としての自覚・使命感・情熱のために

教員は、生徒が人間として成長する上での教育の持つ重要性を深く認識し、自らがその成長や人間形成に影響を与える存在であることを自覚して、使命感と情熱を持って行動する。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	現場への興味関心 教員適性と改善 教育活動への意欲	教育の意義の理解 理想の教師像 指導者としての自覚	学校の社会的役割 柔軟な思考力 しっかりした教職への意志
実践	教職入門 現場教師の講話	インターンシップ 現場教師の講話	教職課程のまとめ 教育実践演習

②教員としての確固たる倫理観育成のために

教員は、社会人としての適切な判断力や行動力を持ち、かつ、全体の奉仕者としての高い倫理観を身につけるような取組をする。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	心身の健康 批判的思考力 計画的な生活	公平な判断 毅然とした態度 勤務の知識	社会人としての適性 社会的正義感 教職への見通し
実践	ヒューマンサービス実践 一般教養マナー支援	教員採用講習 教職アドバイザー制度	教員採用検査講習 教員採用検査受検

③積極性と豊かなコミュニケーション能力のために

教員は、生徒に積極的に働きかけ、教えと学びの関係をつくり、また、豊かなコミュニケーション能力を持ち、生徒や保護者等との間に良好な人間関係を築く努力をする。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	積極的な対人姿勢 集団の機能の理解 場に応じた態度	相互理解への努力 人間関係づくりの方法 わかりやすい話し方	明快な態度表明 意見の調整 プレゼンテーション・スキル
実践	集団的討論 P C活用技術	課題研究の発表・原稿 学校訪問	プレゼンテーション 研究紀要編集

④自らの実践の評価と改善のために

教員は、自らの教育実践を常に振り返り、自らの教育の視点や態度を評価、改善し向上するために柔軟な思考力をつける。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	実践の記録とその活用 多様な視点 討論への参加	謙虚な振り返り 生徒の視点への転換 視点に基づいた実践の批評	自立的な実践サイクル 反省的实践 実践コミュニティ
実践	各種資格取得計画 趣味・特技実践	各種資格取得 論文作成	各種資格取得 現場教師の講話

(2) 教科内容や指導方法に精通した、「授業づくり」ができること。

⑤教育目標と発達課題に基づく授業の構想のために

教員は、教育活動の目的を明確にし、学校の教育目標と生徒の発達課題を踏まえて授業を構想する。また、歴史・文化・自然等を踏まえた教材づくりや特色ある教育を考える。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	学習指導要領の知識 生徒の自立への問題意識 教育活動全体のイメージ化	単元の展開と授業案 教材の意義の明確化 理論や実践の理解	教育目標の体系的理解 教材間の関連づけ 授業展開のアイデア
実践	学習指導案作成 授業見学	模擬授業 教育実習	教育実践演習 教育実習校の学校経営

⑥教科内容の深い理解と生徒への知識の定着のために

教員は、教材にかかわる専門的かつ体系的な知識を持ち、生徒の発達段階に即して知識を定着させられる指導力をつける。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	専門的知識・技術の会得 現代社会の理解 生徒を取り囲む環境	指導内容の構造化 授業資料の蓄積 授業内容と生徒との関連	具体的な説明 学び続けようとする態度 専門の体系的知識
実践	専門教科科目単元編集 単元の教材作成	総合演習 学習指導案作成技術	教材開発演習Ⅰ 教材開発演習Ⅱ

⑦効果的な指導方法と指導技術の研究・開発のために

教員は、授業実践を通して、より効果的に知識や技術を伝達する方法や生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる方法の研究及び開発に取り組む。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	教育情報の入手 授業参観と授業研究 多数を前にした発表	計画的な授業展開 スムーズな授業展開 生徒主体の学習	教育方法の思想 生徒への柔軟な対応 授業実践のイメージ化
実践	地域人材・資源の活用方法 実験実習の調査	アグリトライ 課題研究・視察研修	実験実習計画作成 教育実践演習

⑧生徒の学習状況の評価のために

教員は、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、学習の充実や改善に向けて適切な助言を与えることにより、生徒が自信や意欲を持ち、見通しを持って学び続けられる評価を工夫する。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	評価の重要性 反省的視点 公正な判断	簡単なテストの作成 生徒の状況の言語化 カウンセリング・マインド	評価の実践への活用 個に応じたアドバイス 実戦へのフィードバック
実践	評価基準の現状把握 評価基準の作成	アグリトライ 教育実習	学習評価演習Ⅰ 学習評価演習Ⅱ

(3) 生徒の人間的な成長や発達を支えていく、「人づくり」ができること。

⑨生徒の人間的な成長・発達と個性の把握のために

教員は、生徒の発達段階を踏まえながら、一人ひとりを多面的にとらえられるように取り組む。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	生徒の発達への関心 教育問題の把握 自ら受けた教育の対象化	トラブルについての予備知識 活動を通じた生徒理解 特別支援教育	生徒の問題への共感 多様な生徒の理解 問題解決のための協力
実践	教育の現状調査 動植物栽培飼育実習	士幌高校訪問実習 特別支援教育ボランティア活動	農・食・環境・生命の教育応用 教育の実態調査と考察

⑩個人の尊重と互いを高め合う学級経営のために

教員は、生徒一人ひとりを尊重するとともに、豊かな人間関係を形成する学級経営のために、よりよい個人と集団の在り方を追求する。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	集団指導のイメージ 安全性の重視 活動における自治の重視	生徒との自然なふれあい 毅然とした指導姿勢 生徒との共同解決	生徒間の関係形成 正義感ある学級づくり 自立を促す学級づくり
実践	学級と生徒の関係調査 学級経営における問題調査	スクール・サポート事業 教育実習・とわ塾	学級づくりの具体的活動 魅力ある学級づくり演習

⑪生徒の個性を伸ばし社会性を高める諸活動の展開のために

教員は、生徒の主体的・自治的な活動や文化・スポーツ活動などを通して個性を伸ばさせるとともに、豊かな社会性が身に付く活動を考え実践する。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	自らの個性の伸長 自治的活動の経験 生徒が夢中になる活動	得意な知識や技術の教授 諸活動の企画への意欲 諸活動の企画力	活動の目的の明確化 権利、義務、責任 生きる力の伸長
実践	特別活動 ボランティア活動	教職応用演習 ボランティア活動	特別活動 ボランティア活動

(4) 教職員同士や地域との連携を進める、「学校づくり」ができること。

⑫教職員の協働とよりよい学校経営のために

教員は、教職員一人ひとりが互いに持ち味を発揮しながら協働することによって、より充実した教育活動を展開できることを認識し、組織の一員として教育力の向上を目指すとともに、創意と活力にあふれた職場を築くために積極的に学校経営を考える。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	公共的価値観 建設的な話し合い 教育の組織性	学校をめぐる多様な関係理解 生徒の指導における協力 目標の共有と追求	学校づくりのイメージ 教職員のチームワーク 同僚の課題意識
実践	討論会 教職特論	教育実習 課題発表会	ゼミ室・研究室の教育応用 学習指導要領の研究討議

⑬学校と家庭・地域社会との連携のために

教員は、地域理解に努め、その実態を踏まえて学校と家庭・地域社会との連携を図り、地域の特性を生かし、地域に根ざした学校づくりが進められるような取組をする。

	1・2年生	3年生	4年生
目標	地域社会との接触 異世代との交流 地域活動への参加	地域社会の理解 地域の子どもの理解 地域における学校の役割	保護者との協力 保護者との連携方法 地域活動の理解
実践	ボランティア活動 小学校訪問	地域産業支援事業 特別支援学校訪問	異世代間交流事業 地域イベント参加

3. 得意分野を持つ個性豊かな教員

このように教員には多様な資質能力が求められ、教員一人一人がこれらについて最小限必要な知識、技能等を備えることが不可欠です。しかしながら、すべての教員が一律にこれら多様な資質能力を高度に身につけることを期待しても、それは現実的ではありません。

むしろ学校では、多様な資質能力を持つ個性豊かな人材によって構成される教員集団が連携・協働することにより、学校という組織全体として充実した教育活動を展開すべきものと考えます。また、いじめや登校拒否の問題をはじめとする現在の学校を取り巻く問題の複雑さ・困難さの中では、学校と家庭や地域社会との協力、教員とそれ以外の専門家（学校医、スクール・カウンセラー等）との連携・協働が一層重要なものとなることから、専門家による日常的な指導・助言・援助の体制整備や学校と専門機関との連携の確保などを今後更に積極的に進める必要があります。

さらに、教員一人一人の資質能力は決して固定的なものでなく、変化し、成長が可能なものであり、それぞれの機能、専門分野、能力・適性、興味・関心等に応じ、生涯にわたりその向上が図られる必要があります。教員としての力量の向上は、日々の教育実践や教員自身の研鑽により図られるのが基本ではありますが、任命権者等が行なう研修もまた極めて重要であります。現職研修の体系や機会を着実に整備されつつありますが、今後一層の充実が期待されます。

このようなことを踏まえれば、今後における教員の資質能力の在り方を考えるに当たっては、画一的な教員像を求めることは避け、生涯にわたり資質能力の向上を図るという前提に立って、全教員に共通に求められる基礎的・基本的な資質能力を確保するとともに、さらに積極的に各人の得意分野作りや個性の伸張を図ることが大切です。結局は、このことが学校に活力をもたらし、学校の教育力を高めることに資するものと考えます。

教職コースを選択しようと思っている

みなさんに考えてほしいこと！

「教職コース」が掲げる13の項目は、いずれも大きな柱となる内容であり、これらをより豊かなものにしていくためには、それぞれの項目を次の三つの側面からとらえることが必要です。

その三つとは、〈態度〉 〈知識〉 〈実践力〉であり、これらは相互に密接にかかわり合うものです。

〈態度〉

「生徒観」や「授業観」など、教育にかかわる根本的なものの見方や価値観など。

◇ 生徒や保護者、教員間の交流や経験を重ね、自ら省察することによって形成されるものです。

〈知識〉

教員として教育実践を行う上で必ず知っておくべき内容や原理原則など。

◇ 大学や研修の場で学んだり、本や資料から得た情報を整理することによって形成されます。

〈実践力〉

状況に応じて適切な判断を下し、臨機応変に行動することができる力など。

◇ 教職経験を積む中で、適切な指導を受けることによって伸びていきます。

学校の先生になろう、又はなりたいと考えている人は、教育職員免許法に定める教育職員免許状を取得して、学校教育法に定める学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校「旧養護学校・盲学校・聾学校等」及び幼稚園）の教育職員（教諭、助教諭、養護教諭、養護所教諭及び講師）にならなければなりません。

また、教職コースは3年生の時点で教育実習に行くことから、教職課程生と比べて多くの努力が必要になります。コースの教育内容も教員を目指す学生のためのものですので、将来の進路選択を十分に考えた上で、教職コースを選択してください。

教職コースQ&A

Q 1 教職コースに所属しないと、教育職員免許状は取得できないのですか？

A 1 教職コースに所属しなくても、教職課程に登録していればコースの専門教育を受けながら免許を取得することができます。

Q 2 教職コースに所属することで、どのようなメリットが得られますか？

A 2 教職コースでは、教員に必要な知識や技能を身につけるための専門の授業を受けることができます。また、教職に関する科目（30～40単位程度）が卒業要件として認められるため、農業科の免許に加えて理科や社会科などの複数の免許が取りやすくなります。さらに、コース生は3年次に教育実習に行くことになるので、採用試験に向けて充実した準備ができます。

Q 3 環境共生学類に教職コースがないのはなぜですか？

A 3 教職コースは、農業全般に詳しい農業科教員、理科科教員、社会科教員の養成を目指しているため、農業科の免許の取得ができない環境共生学類には教職コースがありません。環境共生学類の学生は教職課程に登録して、理科（中学・高校）の免許の取得を目指すことになります。

Q 4 教職コースを選択した場合、支払った「教職課程料の30,000円」は返還されるのですか。

A 4 教職課程料の30,000円は教職課程の科目を受講するための登録料ですので、返還はいたしません。

○教職コース～1年目のスケジュール

前期スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月
「教職入門」登録	「教職課程の手引き（新課程用）」完成		・教職課程登録ガイド ダンス・「先輩教職課程生の講話」 ・教職課程登録		

後期スケジュール

10月	11月	12月	1月	2月	3月
「教育原理」 「教育心理学」	教職コースの説明 希望者募集	希望者に対する個別面談実施 コース選択			コース・移行アドバイザー決定

○教職コースの4年間のスケジュール～主な科目配置とコース移行手続きの時期（予定）

学年	1年	2年	3年	4年
前期	教職入門 【教職課程登録】	サービス・ラーニング 【とわの森三愛高校授業見学】	教科教育法Ⅱ 教職インターンシップⅠ 教職概論（旧：教師論） 教職応用演習 【課程生・実習内諾交渉開始】	教職インターンシップⅡ 【課程生・教育実習】
後期	教育原理・教育心理学 【コース選択】	教科教育法Ⅰ 【ゼミ選択・コース転出】 【教職課程特別研修】 【コース生・実習内諾交渉開始】	【コース生・教育実習】 教職応用演習	教職実践演習 【教員免許申請】